

ラズ

(ロ) 物價騰貴ノ趨勢著シク間ノ横行、經濟道義ノ頽廢等ニ依ル經濟秩序紊亂ノ傾向漸ク顯著トナリ今後ノ推移ニ依リテハイインフレーション昂進ノ極遂ニハ戰時經濟ノ組織的運營ヲ不能ナラシムルノ虞ナシトセズ

判 決

國力ノ現狀以上ノ如ク加之敵ノ空襲激化ニ伴ヒ物的國力ノ充實極メテ困難ナル狀況ニアリト雖モ之カ最大ノ隘路ハ生産意欲並敢闘精神ノ不足ト
23

國力ノ戦力化ニ關スル具体的施策ノ不徹底ナルトニ存ス。
之カ爲國民ノ戰意特ニ皇國傳統ノ忠誠心ヲ遺憾ナク發揮セシムルト共ニ
戰爭遂行ニ必要ナル最少限ノ戦力維持ヲ可能ナラシムル如ク八、九月頃
迄ニ完了セシムルコトヲ自途トシ強力ナル各種具体的施策ヲ講スルノ要
アリ

國
機
密

參拾五部ノ内第 19 號

御前會議經過

日時 昭和二十年六月八日午前十時五分開會
午前十一時五十五分終了

場所 宮内省第二期廳舍表拜謁間

○内閣總理大臣

是ヨリ開會致シマス、御許シテ受ケマシタノデ私ガ議事ヲ進メル
コトト致シマス、本日ノ議題ハ「今後採ルベキ戦争指導ノ基本大綱」
デアリマス、

本問題ヲ研究スル前提ト致シマシテ、先ツ國力ノ現状ニ關シテ一
應検討致シ度イト思ヒマス、綜合計畫局長官ヲシテ朗讀致サセマス、

○綜合計畫局長官

「國力ノ現状」朗讀

○内閣總理大臣

次ニ世界情勢判斷ニ關シ關係各省ニ於テ研究シ之ヲ綜合致シマス

タモノヲ内閣書記官長ヲシテ朗讀致サセマス。

○内閣書記官長

「世界情勢判断」朗讀

○内閣總理大臣

次ニ陸海軍統帥部ニ於カレテ今後ノ作戰ニ關スル所見ヲ御述ベ願ヒ度イト存ジマス。

○參謀總長代理 參謀次長 發言

○軍令部總長 發言

○内閣總理大臣

以上承ツタ所ニ關シテ御列席ノ各位ヨリ順次所見ノ御開陳ヲ願ヒ

度イト思フノデアリマスルガ、先ツ軍需大臣ヨリ軍需生産ニ關シテ御話ヲ願ヒ度イト思ヒマス。

○軍需大臣 發言

○内閣總理大臣

次ニ農商大臣ヨリ食糧事情ニ關シテ御話ヲ願ヒ度イト思ヒマス。

○農商大臣 發言

○内閣總理大臣

次ニ外交上ノ問題ニ關シテ外務大臣ヨリ御話ヲ願ヒ度イト思ヒマ
ス。

○外務大臣 發言

○内閣總理大臣

尙御列席ノ樞密院議長、陸海軍大臣、兩總長ヨリ御所見ガゴサイ
マスルナラバ此ノ際御述ベテ願ヒ度イト思ヒマス。

○平沼樞密院議長 發言

○内閣總理大臣

以上御話ヲ綜合致シマスルト、今後採ルベキ戦争指導ノ大綱ハ概
ネ一昨日最高戦争指導會議ニ於テ審議致シマシタル所ニ歸スルモノ
ノ如ク存ゼラレマスカラ、茲ニ一昨日右會議ニ於テ審議致シマシタ
ル「今後採ルベキ戦争指導ノ基本大綱」ヲ議案トシテ審議致シタラ

如何カト思ヒマス。

先ヅ内閣書記官長ヲシテ之ヲ朗讀致サセマス。

○内閣書記官長

「今後採ルベキ戦争指導ノ基本大綱」朗讀

○内閣總理大臣

本議題ニ付テ皆様ヨリ御意見ヲ御述ベ願ヒ度イト思ヒマス。

(發言無シ)

○内閣總理大臣

別ニ御發言モナイヤウデアリマスカラ、本案ニ御異議ナキモノト認_レテ宜シウ御座イマセウカ。

○内閣總理大臣

別ニ御異議モナイモノト認_レマス。

○内閣總理大臣

本件「今後採ルベキ戦争指導ノ基本大綱」ニ從ヒ今後政府、統帥部ハ眞ニ一体トナツテ之ガ實現ニ努_メテ參ル次第デアリマスルガ、本件ハ本日ノ論議ニ徹シテモ明カナル通り、政府竝ニ統帥部ニ於テハ並々ナラヌ努力ヲ致スコトガ必須ノ前提要件トナツテ居ルノデア

リマス。統帥部ニ於カレマシテハ眞ニ陸海一体ノ綜合作戦ノ妙ヲ發
揮セラレマスルヲウニ御願ヲ致シマスルト同時ニ、政府ノ側ニ於キ
マシテモ本大綱就中其ノ第二項及第三項ニ付テハ閣僚一同言葉ノ通
リ必死ノ決心ヲ以テマシテ之ガ具現ニ努力致シマシテ、誓ツテ本大
綱ニ示サレタル方針ノ完遂ニ邁進致ス覺悟デゴザイマス。

現下帝國ノ情勢ハ眞ニ危急デゴザイマス。謂ハバ死コニ活ヲ求ム

ルノ立場ニ在ルトモ申スコトガ出來ルト思フノデゴザイマスルガ、
是ノ**ハ**單純ナル**ハ**智慧トカ才覺トカヲ以テハ能クシ得ナイ所デゴザイ

マシテ、簡明直截、右朝左眚スルコトヲダケ、舊ラニ所信ニ向ツテ邁

達スル外ハナインデアリマシテ、此處ニ私共政府ノ覺悟ヲ申上ゲテ
置ク次第デゴザイマス。
之ヲ以テ閉會致シマス。

○内閣總理大臣入御奏請

○入御



今後探ルヘキ戦争指導ノ基本大綱ニ關シ
御前會議經過概要

一 參謀總長代理河邊參謀次長

參謀總長ニ代ツテ帝國陸軍今後ノ作戰ニ關スル所信ニ就テ申上マ
ス

沖繩本島ノ作戰ハ皇軍ノ陸海空ニ亘ル決死敢闘ニヨリ敵上陸開始
以來二箇月有餘ノ間極メテ優勢ノ敵ニ對シ稀ニ見ル大ナル數的戰

昭和廿年六月八日
於 官 中

果ヲ收メツツ今日ニ至リマシタカ陸上ノ戰況ハ昨今相當ノ苦境ニ
立至リマシタ

陸軍統帥部ト致シマシテハ今後共海軍ト協力致シマシテ此方面ニ
推進強化セラルベキ敵空海基地ノ制壓ヲ續行致シ敵戦力ノ消耗敵
爾後ノ進攻遲滯ニ努力致ス所存テアリマス
一方敵ハ對日戰爭ノ短期終結ニ焦慮致シ居ル模様テアリマシテ在
歐兵力ノ東洋回航ニモ努力シツツアリマスルカ故ニ今ヤ近ク東亞
ノ各方面殊ニ直接皇國本土ヘノ敵ノ進攻ヲ豫期スヘキ情勢ヲ示ス
ニ至リマシタ

皇國本土及其ノ周邊ノ作戰ニ方リマシテハ陸軍ハ海軍ト合体的
緊密ナル協同ノモト先ツ主トシテ航空戦力ヲ活用致シ極力敵ヲ洋
上ニ撃滅スルコトニ努メ其ノ上陸ヲ見ル場合ニ於キマシテハ「ガ」
島作戰以來欲スルモ發揮シ得マセンテシタ帝國陸軍主力ノ運用ニ
ヨリ敵ニ決戦ヲ求メ得ルト存シマス

本土ニ於ケル作戰ハ從來各方面ニ於ケル弧島等ノ作戰ト其ノ本質
ニ於テ趣ヲ異ニシ今後愈々長遠トナル海路ニ背後連絡線ヲ保持シ
テ來攻スル敵ニ對シ其ノ上陸點方面ニ我カ主力軍ヲ機動集中シ大
ナル縱長兵力ヲ以テ連續不斷ノ攻勢ヲ強行シ得マスルト共ニ所謂地

ノ利ヲ得且忠誠燃ユル全國民ノ協力ヲモ期待シ得ル次第テアリマシ
テ此等ニ本土決戰必成ノ根基ヲ見出シ得ルト信シマス
即チ大体ニ於キマシテ從來ノ離島及遠洋ノ作戰ニ於キマスルノト
凡ソ彼我ノ立場ヲ反對ニスルノ態勢ヲ示スノテアリマス
故ニ我レ一度敵上陸軍ニ對シ攻勢ヲ發揮致シマスレハ洋上、水際、
陸上到ルトコロニ全軍ヲ擧ケテ刺違ノ戦法ヲ以テ臨ミ敵ヲ大海ニ排
擠殲滅セスンハ斷シテ攻勢ヲ中止セサルノ鞏固ナル信念的統帥ニ徹
シ茲ニ皇軍傳統ノ精華ヲ發揮シ必ス捷利ヲ獲ルモノト確信致シテ居
ル次第テアリマス又皇國獨特ノ空中及水上特攻攻撃ハ「レイテ」作

戰以來敵ニ痛烈ナル打撃ヲ與ヘテ來タノテアリマスカ累次ノ經
験ト研究ヲ重ネマシタ諸點モアリ今後ノ作戰ニ於キマシテ益々其
ノ成果ヲ期待致シテ居ル次第テアリマス
尙今後愈々殲烈化スル敵ノ空襲ニ對處シ諸般ノ防空態勢ヲ強化シ
我カ國力ヲ維持シ特ニ戦力根源ノ掩護ニ努力ヲ傾倒致ス所存テア
リマス
右ニ申シ上ケマシタ必捷ノ信念ヲ基トシ今ヤ軍ハ擧ケテ愈々皇國
獲持ノ烈々タル氣魄ノ下ニ著々作戰準備ニ邁進致シテ居リマシテ
築城ノ促進、本土決戰即應訓練ノ向上、後方諸策等未タ意ニ滿タ

又點モ少ナカラスアリマスカ逐次必捷態勢ノ完整ニ急キツツアル
次第テアリマス

若シ敵ニシテ急速ニ本土ニ進攻致シマセス大陸ノ一部等ヲ含ミテ
航空基地ヲ擴充強化シ我カ本土ニ對シ所謂對鎖的戰略ヲ企圖致ス
ニ對シマシテハ陸軍ハ海軍ト協同シ航空擊滅戰ニ努力シ敵ヲシテ其
其ノ企圖ヲ斷念セシムルコトハ國土ニ基地ヲ直接保有シ得マスル我
我カ航空ノ現態勢ニ於キマシテ敢テ至難ノ業トハ考ヘマセン
作戰上ノ所信ハ右ノ通テ御座イマスカ一言附加致シマスレハ對米
作戰ノ完遂ヲ期スルカ爲ニハ對蘇關係ニ於テ絶對ノ靜謐ヲ保持致

シマスルコトカ戰爭指導上確守スヘキ根本要件ノ一ナルコト申ス
迄モアリマセン故ニ軍ハ對蘇作戰準備ノ急速整備ニ方リマシテ特
ニ此ノ點ニ付細心ノ注意ヲ加ヘアルトコロテアリマス
然シナカラ之カ積極的對策トシテ對米作戰ノ完遂ヲ期シ敵ノ進攻
ニ對シ決定的打撃ヲ與フルコトカ蘇邦ヲシテ北邊ヲ窺フノ罅隙ナ
カラシムル所以テアルト信シテ居ル次第テ御座リマス

一軍令部總長

(1) 敵情判斷

沖繩ノ作戰ハ敵ニ大出血ヲ與ヘ其ノ結果ハ敵爾後ノ進攻ヲ遷延
セシメタリ

機動部隊ニ對シテハ相當ノ打撃ヲ與ヘ空母ノ₂ヲ撃沈セリ從テ
再整備ヲ了ル迄ハ飛躍的ノ進攻ハ困難テハナイカト思フ。シカ
シ沖繩ノ戰況如何ニ拘ラス航空戰ハ活潑ニ之ヲ實行スル。敵ノ
次期作戰ニツキマシテハ速急速決ヲ企圖スルナラン

故ニ壓倒的兵力ヲ以テ本土上陸ノ爲ノ準備ヲシテキルモノト思フ而シテ直路關東平地ニ上陸スルコトヲ企圖スルモノト思フケレトモ沖繩ノ損害ノ爲又適當ナル航空基地ナキ理由ニヨリ有力ナル機動部隊ヲ伴ハサルヘカラサルヲ以テ時間ヲ要スルモノト思フ。從テ九州及四國ノ南部ヲ占領シテ茲ニ飛行根據地ヲ求めタル後關東平地ニ作戰スルコトヲ考ヘラレル此ノ場合九州又ハ四國ニ上陸スルハ七、八月頃、關東平地ニ上陸スルハ本年初秋以降ト判斷ス

沖繩ニ續キ徳ノ島、喜界ヶ島、奄美大島ノ攻略ヲ企圖スルナラ

ン
尙沖繩、硫黃島、「マリアナ」ノ航空基地ノ強化ヲ圖リ本土爆撃ヲヤリ大陸トノ交通遮斷ヲ企圖スルモノト考ヘル。從テ北部

日本海以外ノ航海ハ困難トナルヘシ

濟州島ノ上陸ハ大陸トノ交通ヲ遮斷スル爲又内地陸上ノ基地ヲツクル意味ノ價值アリ、中支及其以北ノ作戰ハ飛行基地トシテ着目シ恐ラク六、七月頃行フヘク、南支、佛印ニ對シテハ英軍

ヲ主体トシテ進攻スルナラン

千島及北海道方面ハ牽制作戦ノ程度ナラン但シ「ソ」ノ出方如何ニヨリテハ眞面目ノ攻勢ヲ採ルナラン

(四) 作战ノ見透

以上ノ如キ情勢判断ノ下ニ陸海軍ノ協同戦備ハ本土決戦ニ重點ヲ置ク其他ハ持久又ハ邀撃ノ任務ヲ與ヘル

本土ニ於テハ飛行機、水上、水中ノ特攻ニヨリ海上撃滅ヲ圖ル但シ茲數ヶ月ハ海上ニ於テ全部ヲ撃滅スルコトハ出来ナイケレ

トモ陸軍ノ飛行機及水上特攻ヲ使用セハ敵若シ六、七月頃ニ進攻シ來ル場合ハ其ノ $\frac{1}{2}$ ハ水際前ニ於テ撃滅シ得

六、七月頃以降ニ於テハ物ノ整備ニ於テハ上昇スル豫定ナルモ空襲ノ影響上現在以上ハ無理ト考ヘラレル

此ノ如キ情勢ニ於テハ生産ノ維持特ニ飛行機、燃料カ戦争完遂上絶對ノ條件ト考ヘル

一 軍需大臣

第一四半期ノ実績ヲ見ルト米ト鹽ノ内地へ入り方カ悪イ、尙石炭

カウマク動カナイタメ重要物資カ下廻ツテキル
糧穀、鹽ヲ重點トセハ一般物動ハ極僅少ナリ

本年第一四半期ハ鋼材30%、燃料、火藥60-70% (計畫ニ對シ)
ナリ、飛行機ニツキテハ原材料サヘアレハ月二千機ヲ確保シ得ル
ノ目途アリ

現在疎開ヲヤツテキルコトト關聯工業ノ爆撃ニヨル影響アリ若シ
沖繩カ失陥セハ此ノ影響ハ更ニ惡化スルモノト考ヘル、要ハ大陸
ヨリノ輸送力確保如何ニヨル從テ交通、防衛ニツキ自分ハ希望ス

ル尙軍需省トシテハ軍部及關係省ト協力シテ手段ヲツクシテ責任
ヲトレルヤウナ体制ヲ急速ニ進メテ行キタイト考ヘル

農商大臣

農業生産ハ諸種ノ惡條件ニ煩ハサレテ減少スルノ已ムナキ狀況ニ
アリ然シ食糧ノ生産ハ施策ノ適切ト農民ノ協カトニヨリ事變前ノ
狀態ヲ維持シテキル、場所ニヨリテハ事變前ヨリヨイトコロカア
ル、何シロ人口ノ多イ我國ニ於テハ主食糧ヲ海外ニ求メナクテハ
ナラヌ現情ニアル、戰況ノ推移ニ應シ急速ニ國內態勢強化ノ必要

カ生シテ來テキル。コレニハ努力シテキルカ農業生産ノ特質上直
チニ効果ヲ收メルコトハ出來ナイ

本年供給力ノ不足八一二八〇万石テアル幽靈人口ノ整理、配給段
階ノ整理、職場配給及業務用外食券ノ設定、農家供出増、古麥ノ
使用、防空都市備蓄米ノ使用ヲ以テ四六七万石程度出ルケレトモ
尙不足八一三万石テアル

コレカ爲ニハ朝鮮及滿洲ヨリ入レルヨリ外ナシコノ輸入ヲ最モ迅
速ニ目的達成ニ努力セルモ現戰局、船舶量、軍需米ノ輸入等ノ關

陸軍

係上取得至難ナリ、然ルニ六四五万石ハドウシテモ必要テアル四
二五万石ハ何トカシテトレルモノトシテ二二〇万石ノ不足ヲ忍ハ
ネハナラヌ其他「アルヨール」用トシテ九〇万屯不足シテキル、
現在輸入実績不良ニシテコレヲ如何ニシテ充足スルカカ今日ノ最
大問題テアル、勞務ノ充足、農村消費ノ壓縮、都道府縣ヨリノ流
用、甘藷ノ早掘、米ノ早期出荷等ヲヤリ尙二〇〇万石不足スルソ
コテ現在ノ配給量維持ハ不可能、同時ニ國內交通ノ推移ヲ考ヘル
ト地域的ニ相當ノ壓縮ヲ余儀ナクサレル

又科學的技術的措置ヲトリ少シテモ惡影響ヲ防止シタイ

本年ノ麥作ハ不良テ四一五〇〇万石シカ流用出來ヌ

農商省トシテハ余ツタ麥ヲシツ、集メテ最後ノ豫備カニ〇〇万石
アルコレヲ投入スレハ補ヒカツカナクナル、最低量ヲ破ルコトヲ
一日モ早ク國民ニ知ラセタイト思フカ民心ノ動向、戰意ノ昂揚ニ
注意セネハナラヌ故ニ本件ハ農商大臣ノ意向ノミヲ以テ之ヲ決定
シ得ナイ但シ大体之ヲ示スヘキ時期ニ到達シテキルト考ヘル
此ノ際統帥部及軍政方面ヘオネカヒ致シタイコトハ作戰ト一ノ必

要量ノコトテアル、民需ノコトヲ考ヘテ軍部ノ意途ヲ示シテモラ
ヘルナラハ最低基準量ヲ割ル爲ノ大ナル參考ナリト考ヘル

一 外務大臣

英米「ソ」支ノ動向ニツキテハ同感ナリ、「アメリカ」ノ戰爭指
導ニツキテハ種々ノ困難性ノアルノハ事實ナルモ日本ヲ短時間ニ
屈伏セシメ無條件降伏ヲ企圖シテキル、英國ハ米國ニ完全ニ追隨
シテキルカラ英米間ヲ疎隔スルコトハ出來ヌ、英米「ソ」ノ離間
ハ歐洲問題、近東問題、世界平和機構ノ確立問題等ニテ確カ起

ルモノト考ヘル、世界平和ノ確定ハ三國ノ態度如何ニヨリテ決ス
ルモノニシテ恐ラク三者ノ關係ヲ割ルコトハ不可能テアル
「ソ」聯ハ昨年日本ニ對シ侵略國呼ハリシ本年ニナリテ中立國ト
シテノ態度ヲ捨テヤウトシテキル事實上對敵行爲ニ出スルノ自由
ヲ採ツタモノト考ヘル

外交ハ戰局ニ左右セラレル從テ將來中立關係ヲ維持シ得ルヤ否ヤ
ハ今後ノ戰局ニ左右セラル、トコロ大ナルノミナラス「ソ」ハ日
本ハ負ケルタラウトノ見透シヲツケテキルノテ外交ハ益々困難テ

アル、「ソ」ヲシテ中立ヲ維持セシムル爲万般ノ努力ヲシテキル
シカシ嚴正中立以上ノ好意的中立ヲトラセルコトハ戰局好轉セサ
レハ不可能テアル、重慶ニ對シテハイロ ヤツテ見タケレトモ
戰局上日支間ノミノ和平ハ不可能テアル、日支全面和平ヲスルコ
トハ日米全面和平ニナラサルヲ得ナイ但シ重慶ニ對シテハ我公正
ナル態度ヲ示スコトハ努力ノ餘地モアリ又價値カアル

一平沼樞密院議長

昨夜此ノ書面ヲイタ、キ精讀セリ其結果了解シ兼ネル點モ多々ア

リシカ只今各大臣カラノ説明ニヨリ略了解セリ

又今後ノ作戰ニツキテハ參謀總長及軍令部總長ヨリ周到ナル計畫
カ立テラレテキルコトヲ知り此ノ點モ亦十分了解セリ

參考ノ爲一言ス、世界情勢判斷、國力ノ現状等ヲ綜合シテ考ヘル
トキ當局ノ非常ナル努力ニ拘ラス今後ノ戰爭遂行ニハ非常ナル困
難ナルコトヲ痛感スル敵ノ物量、科學ノ應用ハ旺盛ナリト聞イテ
キルコレニ對シテ我國ノ物量及科學ノ應用ハ努力ハシテキルト信
スルケレトモ之ニ對抗スルコトハ難カシイ問題テ敵ノ優勢ヲ深ク

考慮シナケレハナラヌ、要ハ將來困難ナリトイフコトハマコトニ
明瞭ナリ、付テハコレカ對策ヲ確立スルコト必要ニシテコレカ今
日審議セラレルトコロテアルト思フ、此ノ大綱ニハ方針ト要領ト
カアルカ何レモ斯クアルヘキモノト思フ、只茲ニ國体ヲ擁護シト
アルモ國体ノ擁護ハ平戰時ヲ通シ國民トシテ非常ノ努力ヲ要スル
モノト思フ

我國ハ内亂ノ爲國体ニ汚點ヲ生シタルコトハアルケレトモ何レモ
御稜威ノ下直チニ舊ニ復シテキル、大化ノ改新、建武ノ中興、明